

平成29年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月19日実施)	総合評価 (3月27日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①基礎学力の定着、専門教育の充実、共通教科と専門教科のバランスに配慮した教育課程編成や組織的な授業改善に取り組む。</p> <p>②学校行事や生徒会活動等を充実させ、生徒の主体的行動の促進を図る。</p>	<p>①生徒の主体的・協働的学びを促進する組織的な授業改善に取り組む。</p> <p>②学校行事や生徒会活動で生徒が主体的に活動できる環境づくりを行い、支援する。</p>	<p>①すべての教員がアクティブラーニングの視点を取り入れ、各単元において生徒の主体的・協働的学びを促進する取組を実施する。</p> <p>②生徒会の活動が、主体的、かつ積極的にできるよう支援し、体育祭、文化祭などの学校行事を通して、達成感や満足度があがるようなサポート体制を構築する。</p>	<p>①生徒による授業評価の項目4における「4とても当てはまる」の回答率が3割以上となったか。</p> <p>②学校行事や生徒会活動に生徒が主体的かつ積極的に取り組めたか。(行事終了後のアンケート調査等)</p>	<p>①「4とても当てはまる」の回答率は46%であった。</p> <p>②体育祭では、体育祭実行委員長を中心に生徒が主体的に取り組み、成功裏に終えることができた。アンケートでも満足度が高かった。文化祭でも台風が接近する荒天の中、生徒会の生徒を中心にオープニングセレモニーから文化祭終了まで主体的に取り組み、アンケートでも満足度が高かった。</p>	<p>①話し合いや発表の機会の項目についての回答率に大きな変化は見られず、その点についての改善を図るとともに、研究授業での取組をすべての教員で共有し引き続き授業改善に取り組む。</p> <p>②体育祭は新年度が始まってから当日までの準備期間が短く、タイトな日程であるため、新役員を中心に2月頃から準備が進められるようサポートする。文化祭ではテント団体の数が多すぎるためもう少し工業高校らしい展示等の活動が充実できるようサポートする。</p>	<p>①専門の先生と生徒との温かみのある指導が良い。今後引き続き取り組んでいただきたい。</p> <p>②行事について、生徒のアンケートの満足度が高く充実したものになっている。行事のポスター等の広報活動は、あらゆる世代の地域住民に広く分かりやすいものにしていただきたい。</p>	<p>①組織的な授業改善に向けて、研究授業をビデオに収録するなど常時参観できる体制を作るなど改善された。</p> <p>②行事について、生徒のアンケートの満足度が高い。特に体育祭は昨年の半日から全日程としたため、内容を充実させることができた。</p>	<p>①更なる組織的な授業改善に向けて、研究授業の設定、趣旨を他校の良い例を参考に改善していく。</p> <p>②体育祭については、種目を増やし更なる充実を図る。文化祭については、工業高校ならではの催しの充実を図る。</p>
2 生徒指導 ・支援	<p>①基本的な生活習慣の確立に向けたきめ細かな生活指導に取り組むとともに、個に応じた支援のための組織的な教育相談体制を確立する。</p> <p>②部活動の活性化を通して、生徒の達成感・連帯感・責任感を涵養する。</p>	<p>①生活指導における職員の共通理解を図り、身だしなみ指導、授業中の携帯電話使用の指導など学校として統一した指導を推進する。</p> <p>②部活動加入率の向上を目指し、年間を通して部活動活性化の取組を行う。</p>	<p>①朝の身だしなみ指導・校内の巡回指導に関しては、全職員である。身だしなみ指導の学年別指導、授業中の携帯電話の持込の禁止については全職員で共通理解のもと指導にあたる。</p> <p>②部活動紹介ビデオを活用した部活動紹介、部活動集会を行うとともに、夏には中学生対象の部活動見学会、部活動体験会を行う。ホームページにおいて部活動のページを充実させる。</p>	<p>①身だしなみ指導の事後指導ができたか。巡回指導ができたか。授業中の携帯電話の持込の禁止について指導できたか。</p> <p>②部活動の加入率が上がったか。</p>	<p>①身だしなみ指導の事後指導は、学年ごとよくできた。巡回指導も、グループごとできていた。携帯電話の授業中の使用禁止についても指導できたが、教員間で指導の差がでた。授業中の携帯使用は1年41件、2年10件、3年18件だった。パーカー着用は1年10件、2年15件、3年15件だった。年間特別指導件数は27件であり、そのうち3日以上の特指導は19件であった。</p> <p>②部活動加入率は71%であったので、概ね達成できた。(昨年69.9%)</p>	<p>①身だしなみ指導は、一定の効果があった。今後も継続したい。巡回指導は、当番を忘れる教員がいるので、巡回表を貼り出すなどの工夫をしたい。授業中の携帯電話の持込の禁止については指導の差があるので徹底したい。指導すれば効果が見られる。</p> <p>②1年生は、全員が部活動に加入しなければならない仕組みになっているが、実際は活動していない生徒も多く見受けられる。そのため、今後定着率の向上に向け、対策を講じる必要がある。</p>	<p>①生徒が来校者にあいさつをする等意識が向上している。制服の乱れがなく、学習環境が整っている。</p> <p>②全国大会に出場する部がある等充実している。部活動の更なる活性化のための具体的な取組を検討していただきたい。</p>	<p>①生活指導については、一定の成果が見られるものの、指導の継続は今後も必要である。教員の認識の共有を図る必要がある。</p> <p>②部活動について、著しい成果を出している部もあるが、全体が活性化しているとは言えない。中学生に対する広報活動が不十分である。</p>	<p>①基本的な生活習慣の確立のために、1学年の指導を充実させる。また、学年を中心とした指導体制の確立を図る。</p> <p>②部活動について、休日も含めたメリハリのある活動計画を作成する。部活動体験会の案内を中学校訪問時に積極的に広報する。</p>
3 進路指導 ・支援	<p>①生徒一人ひとりの進路実現に向けた指導・支援の充実を図る。</p> <p>②これからの時代を生き行く上で必要な資質・能力を育成するためのキャリア教育を推進する。</p>	<p>①企業との連携によるデュアルシステム、インターンシップの充実に向けて取り組む。</p> <p>②キャリア教育で身に付けさせる力を明確にして、高校3年間を見通した体系的なキャリア教育実践プログラムを構築する。</p>	<p>①県西インターンシップ推進連絡協議会や地域の企業と連携し、インターンシップやデュアルシステムの更なる充実を図る。</p> <p>②工業各科及び各学年団が連携し、生徒の進路希望に即した、きめ細かなガイダンスや説明会を実施する。企業や上級学校と連携し、卒業生を招いた進路懇談会及び校外見学実習を実施する。</p>	<p>①インターンシップの参加生徒が増加したか。デュアルシステムの参加生徒が増加したか。また、生徒の就業意識が向上したか。</p> <p>②進路懇談会等で生徒の進路に向けた意識の向上を図る事ができたか。</p>	<p>①インターンシップについては、県西地区のインターンシップに参加した生徒はいしたが、学校独自のものは2年生中心に呼びかけたものの、参加生徒は減少した。デュアルシステムでは、受入れ企業数、参加生徒数ともに減少した。生徒の就業意識についてはキャリアガイダンス等を通じて向上した。</p> <p>②進路懇談会等で生徒の進路に向けた意識の向上を図る事ができた。</p>	<p>①インターンシップについては、建設科において、1月に3事業所にて8名、2月に1事業所にて2名の実施をすることができた。デュアルシステムでは、来年度に向けて、工業教育推進Gを中心に取り組んでいく。</p> <p>②キャリアプログラムをより充実させるように引き続き、努力していく。また、1月には、1・2年生を対象に労働法に関する研修会を実施する事ができた。次年度も引き続き、生徒にとって、効果があるような講座を開催していく。</p>	<p>①生徒の進路先が順調に決まってい良い。インターンシップの参加生徒が減少したことは残念である。受入れ先の確保の手段を検討する必要がある。</p> <p>②進路ガイダンスを各学年で実施し、進路閲覧室を整備する等、生徒が情報を得る機会を増えている。生徒の意識を向上させるための仕掛けが必要である。</p>	<p>①生徒の就職、進学状況は順調だが、インターンシップの参加生徒が減少している。魅力のある受入れ先の確保が必要である。</p> <p>②各学年のガイダンスが開催されて、生徒が情報を得る機会が増えている。生徒の意識を向上させるための仕掛けが必要である。</p>	<p>①インターンシップは保護者の勤務先に協力を依頼する等工夫をする。デュアルシステムの在り方を検討し、実のある活動が困難な場合はインターンシップに特化した生徒就業体験の取組を充実させる。</p> <p>②全国の工業高校で実施されている資格取得のための工夫を参考に新しい取組を行う。</p>

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月19日実施)	総合評価(3月27日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
4	地域等との協働	<p>①地域産業・地域社会との連携・協働による教育活動の充実に取り組む。</p> <p>②地域や中学生に工業高校の魅力・特色を発信するため広報活動の充実を図る。</p>	<p>①社会とのかかわりを自覚し、自己肯定感を育むことにつながるように地域と連携した教育活動を推進する。</p> <p>②生徒が正しく健康やかに育つように保護者と連携した教育活動を推進する。</p> <p>③学校の特色や最新の情報を発信できるように広報活動を積極的に行い、本校の教育活動を広く発信する。</p>	<p>①工業高校の特性を生かし、地域と連携したものづくり活動を実施するとともに、新たな活動についても検討を進める。</p> <p>②保護者と連携した広報活動・環境整備・生徒指導・社会教育・学校行事等を円滑に実施する。</p> <p>③リニューアルしたホームページを活用し、情報発信をより充実させる。また、学校説明会においては、動画の活用や生徒の参加を進め、本校の特色をより効果的にアピールできるよう工夫する。</p>	<p>①地域と連携したものづくり活動への参加生徒数が増加したか。地域住民の評価は良好か。(アンケート調査等)</p> <p>②連携した活動に参加した保護者の評価は良好か。(アンケート調査等)</p> <p>③本校への興味・関心を測るホームページへのアクセス数が増加したか。学校説明会等への来場者や、近隣中学校などの評価は良好か。(アンケート調査等)</p>	<p>①昨年に引き続き「バカー車イベント」「歴史的建造物の修復」を始めとして授業や有志活動として各種活動を行った。今年度は新たに「JR小田原駅の顔出しパネルの製作」に取組んだほか、要望のあったゴミステーションのケージ製作について当該自治会と設置について検討した。各種ものづくり活動に参加した生徒は96名、その他施設見学等にも多くの生徒が参加した。</p> <p>②生徒指導として「県西地区交通安全高校生・PTA大会」の会場運営を担当、環境整備として9月に「校内清掃」を実施、社会教育として保護者対象の「社会見学会」を実施、学校行事として保護者が「体育祭」に参加、熱中症対策の給水活動等を実施。参加した保護者から「子供達の様子がわかった」「保護者間で情報共有ができた」等、活動を通して高評を得た。</p> <p>③ホームページ上でより多くの情報を発信するために情報収集のための申請書を設けた。また、ホームページを解析、前年と比較するとユーザー数は21000人と1.5%の減であったが、直帰率15.4%減・セッション継続時間が増加していることが判る。学校説明会・施設見学会において、生徒が主体となるように実施。各科の説明や見学会に71名の生徒が協力した。来校者のアンケートの結果では、97%が「参考になった」等の回答を得ることができた。</p>	<p>①ものづくりについては、地域から要請された課題と受入側のマッチングが難しい。また今年度から取り組んでいるゴミステーションのケージ製作についても費用の面で自治会と相違があった。受け入れるテーマや態勢・費用等について、調整が必要である。親子ものづくり体験への参加者が7名と少なかった。前任者のノウハウが引き継がれていない。</p> <p>②今年度、ホームページ掲載のための申請書を新設したが、より多くの魅力ある情報が発信できるように、情報の集約方法等についてさらに検討する必要がある。学校説明会・施設見学会において、各科の説明や見学会に協力した生徒数が科によって偏りがある。また、生徒会役員についても生徒会の説明のみの参加であったので、運営全般にわたり協力を得たい。</p>	<p>①地域に根付いた素晴らしい取組は今後も継続していただきたい。</p> <p>①小学生向けの体験教室「親子ものづくり体験」は、参加人数が少なく残念である。周知方法を検討する必要がある。</p> <p>②多世代との交流が生徒の自己肯定感を育ませるので、小中学校、高齢者施設への訪問の機会を増やすことを検討していただきたい。</p> <p>③ホームページが見やすくなった。幅広い世代が学校とのつながりを持つように、地域の方と生徒、職員が交流できる場所があると良い。</p>	<p>①「JR小田原駅の顔出しパネル製作」等新たな取組を行うことができた。地域から要請された課題と受入側のマッチングが難しく今後実施するためには、検討が必要である。</p> <p>①小学生向けの体験教室は周知活動が十分ではなく改善が必要である。</p> <p>②保護者の活動は充実している。今後は地域と連携し生徒を育む活動を充実させる方策を検討する必要がある。</p> <p>③ホームページがリニューアルされ、情報発信量が増えている。学校説明会の参加者の評価も良好である。今後は多世代の方に広報活動をしていく必要がある。</p> <p>④出前学校説明会を効果的に実施する方法を検討する。本校の食堂等を利用して、地域の方や生徒、職員と交流できる機会を検討する。</p>	<p>①引続き新たな取組を模索する。「ゴミステーションのケージ製作」については、実現する方向で地域との話合いの機会を増やす。</p> <p>①親子ものづくり体験は、教育事務所等に宣伝するなど事前の周知方法を工夫する。</p> <p>①近隣の小中学校の保護者と連携し、情報交換や交流活動を通して生徒の活動の機会を増やしていく。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>①生徒が安心して学校生活を送れるよう学習環境の整備、防災体制の整備に取り組む。</p> <p>②研修による意識啓発、業務の共有・協働・効率化を進め不祥事を未然に防止する。</p>	<p>①生徒・職員が高い防災意識を持ち、災害発生時に的確で、すばやい対応ができるよう校内の体制を見直す。また地域との防災連携を充実させる。</p> <p>②事故防止会議等を通して、職員の事故防止意識を高め、未然の防止や課題の早期発見、早期の対処に努める。</p>	<p>①平成29年度防災基本計画を見直し、DIG等実践的な防災訓練を実施する。また、学校運営協議会における安全防災部会を中心に地域と連携した防災訓練をより充実させる。</p> <p>②教職員間で事故・不祥事防止について声かけを推進し、情報共有を促す。また、外部人材を活用し、効果的な研修を実施する。</p>	<p>①防災訓練により高い防災意識が維持できたか。地域の方々の評価は良好か。(アンケート調査等)</p> <p>②教職員間の声かけを推進し、情報を共有することで、事故・不祥事防止の意識が高まったか。</p>	<p>①避難訓練やDIG研修、地域との合同防災訓練等を行った。アンケート結果から、職員、生徒ともに防災意識を高め、地域との連携を深めることができた。</p> <p>②毎月の職員会議の前にテーマごとの研修を行うとともに必要に応じて朝の打合せにおいても事故・不祥事防止に向けた注意喚起を行い、情報を共有した。また、外部講師を招き、法的な見地からの事故・不祥事防止研修を実施することで職員の意識を高めることができた。</p>	<p>①風水害やアラート等の多様な災害についての非難対応を地域とともに考えていく必要がある。避難所利用に関して小田原市と連携した取組が必要である。</p> <p>②今後も事故・不祥事防止研修を実施し、引き続き教職員の意識をより高める。また、答案を持ち帰るための施錠ができるかばんを購入するなど個々の体制を整備していく。</p>	<p>②合同防災訓練は住民、職員、生徒が協力して良いものになった。夜間の避難体制について検討する必要がある。</p> <p>③生徒が楽しい活動を増やすことと職員の業務の負担感を増やさないことのバランスを考える必要がある。</p>	<p>①防災訓練を通して、地域の方と顔が見える関係になったことが良かった。夜間地域の方の避難時の初動体制の確認が必要である。</p> <p>②事故・不祥事防止研修を通して職員の意識は高まっている。事故・不祥事を防止する具体的な方法を検討する必要がある。</p>	<p>①地域合同防災訓練は、今後も実施し充実させていく。学校避難時の対応、特に夜間について小田原市と話し合い、具体的に整理をしていく必要がある。</p> <p>②外部講師を通した事故・不祥事防止研修を引き続き実施し、常に新しい情報を得る。</p>